

介護、医療、子育て、老後に関するご意見・疑問をお寄せ下さい
メールansin@yomiuri.com
ファックス03・3217・9957

若者 社会に元気



「高齢者が光り輝けるような取り組みをしていきたい」と話す
杉村さん(右)。開発したカートは寄りかかっても倒れにくく

「今日は魚かねえ」。島根県雲南市のショッピングセンターの屋下がり。買い物カートを押す70~80歳代の女性たちが、生鮮食品売り場を一齊に歩き始めた。夕食の献立を考えながら、匂の食材を確認したり、値段を比べたり……。

一見、普通の買い物だが、参加者は血圧を測り、1時間ほどの体操を済ませている。近くでは、作業療法士の杉村卓哉さん(38)らが見守る。買物を通して、介護予防や健康作りを行つ、「買い物リハビリ」だ。杉村さんは「高齢者の笑顔を見ると、起業して本当に良かったと思う」と語る。

介護の仕事をしていた20代の頃、高齢者と話すのが楽しく、作業療法士を志した。病院で勤務し、患者のリハビリ

が減っている。漂流させずに前に進むには、働く一人一人が伸び伸びと力を発揮できる環境が欠かせない。様々な制約を乗り越えて働く若者らを訪ねた。

アイデア生かし起業

それでも倒れず、デザインも工夫したカートを開発。2017年から雲南市を拠点に事業を展開している。

鳥取県米子市出身の杉村さんは、雲南市で起業したのに理由がある。深刻な高齢化と人口減少に危機感を抱いた

市は、11年に地域の課題を解決する若者の活動や起業を応援する「幸雲南塾」をスタート。「日本一、チャレンジに優しいまち」を掲げ、市内

を支えてきたが、自分のやっていることが本当に高齢者のためになっているのか、疑問を抱くようになった。そんな時、高齢者が買い物に連れて行くと、歩行器を使いながらも、目を輝かせ、いつもより長い距離を歩くことが出来たのに驚いた。

「生活中でもっと楽しく、効果的に健康作りができるのではないか」と、思ついたのが買い物リハビリだ。高齢者が体を預けても倒れず、デザインも工夫したカートを開発。2017年から雲南市を拠点に事業を展開している。鳥取県米子市出身の杉村さんは、雲南市で起業したのに理由がある。深刻な高齢化と人口減少に危機感を抱いた市は、11年に地域の課題を解決する若者の活動や起業を応援する「幸雲南塾」をスタート。「日本一、チャレンジに優しいまち」を掲げ、市内

厚いサポート

全国各地の自治体などの

相談に乗り、山形県天童市や福井市などでも買い物リハビリが始まっている。「地方での挑戦のモデルになり、雇用も生まれ出して還返していく

たい」と語る。

幸雲南塾の卒塾生は110人を超えた。雲南市政策推進課の須山雄介さんは「(子どもや高齢者など)多世代のチャレンジの連鎖を生み出していきたい」と力を込める。

外から集まつた塾生を手厚くサポートしてきた。

妻の実家があった雲南市に移住した杉村さんは7期生。

事業を後押ししたのは、幸雲南塾の支援や人脈だった。自

治体関係者や金融機関を紹介してもらい、経営や法務の専門家からも助言を受けた。

東京での研修などにも参加し、意欲も高まった。「移住したからこそできた。今は仕事が面白く、自分が面白く、自信がある」と話す。